

平成19年度第1回シニアパワー部会

日 時 平成19年7月31日(火)午後6時30分

場 所 川崎区役所7階第1会議室

出席委員(敬称略)7名

原田歩、金岩勇夫、中村紀子、魚津利興、荒井敬八、小笠原功、星川孝宜

議題及び公開・非公開

- (1) 部会長の選任について(公開)
- (2) 審議テーマに係る課題について(公開)
- (3) その他(公開)

傍聴人数 0人

午後 6時30分 開 会

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録としての写真撮影を説明>

2 委員長あいさつ

委員長 アメリカンフットボールワールドカップも無事終了した。各委員にお礼を申し上げたい。新聞などのマスメディアでも取り上げられたが、区のイメージアップとして区民会議で提案した川崎駅東口の清掃活動、路上喫煙・放置自転車の放置禁止ステッカーの貼付、まちを花で飾る活動などを実施した。地域の人、商店街、行政などが協力して観客をおもてなしの心で迎えることができ、成功したと思っている。会議資料とともにその新聞記事などを配付しているので、後ほど見て欲しい。

子どもの安全・安心は先月開催された川崎区安全・安心まちづくり協議会で、毎月1日と10日を子どもの安全の日にすることが決まり、今月(7月)の10日から地域が主体となったパトロールを開始した。

5月31日に第1回川崎区区民会議を開催した。そこで区内での大規模なマンション建設による急激な人口増加などもあり、人間関係が非常に希薄になっているので、今年度の審議テーマを地域コミュニティの充実とし、(仮称)シニア世代の地域参加部会、地域防災部会の2つを設置した。本日はシニア世代の地域参加について、いろいろな意見を出して欲しい。

事務局 <本日のスケジュールの説明、配布資料の確認>

### 3 議題

#### (1) 部会長の選任について

委員長 (仮称)シニア世代の地域参加部会の部会員を第1回川崎区区民会議で決めることができなかつたため、その後、各委員に希望を聞いた上で調整した。正式には、部会員は委員長が区民会議に諮って指名することになっているが、よければこれで決定したい。

部会長を決めたいと思うが、多くの委員がかかわれるように委員長・副委員長、昨年度の区のイメージアップ部会長・地域子育て支援部会長は対象外としたい。特に昨年度の部会長は、それぞれの課題解決に向けた取り組みを今後も継続していくため、(仮称)シニア世代の地域参加部会の部会長は他の委員にお願いしたい。

〔発言する者なし〕

委員長 先日の幹事会では、アイデアが豊富で企業OBの人材活用をライフワークとしている星川委員にお願いしたいという意見あった。

〔「お願いします」の声あり〕

委員長 今回の審議課題は新しく建てられたマンションに住む人と従前から地域に住んでいる人の間になかなか接点がないということから出てきた。その中で、シニア世代はいろいろな対策を講じても、定年後に地域で活動をしなない人もいてなかなかうまくいかない。星川委員は仕事としてそのような取り組みをされているとのことなので、力を借りたいと思う。

〔拍手〕

委員長 それでは、部会長は星川委員にお願いする。あいさつをお願いする。

部会長 推薦をいただいた星川である。今日出席している委員は、地域活動に積極的に取り組んでいる人ばかりだと思うので、いろいろ参考にしたい。

委員長からも紹介があったが、私は仕事で全国の企業を定年した人、特に大手の企業が対象だが、そういう人に中小企業の支援をしてくれるようにサポートをする業務を担

当している。

定年したといっても元気でバイタリティーに富んだ人が大勢いるので、その活力を産業界で生かす取り組みをしている。

委員長 この後の進行は部会長にお願いする。

( 2 ) 審議テーマに係る課題について

部会長 事務局から区のシニア世代の現状と市のシニア施策の説明をお願いする。

事務局 < 区のシニア世代の現状、市のシニア施策を説明 >

事務局 < かわさきシニア応援サイトを説明 >

部会長 今の説明を受けた感想、シニア世代の地域参加という審議課題に関する考えなど、意見を出して欲しい。

委員 部会名が仮称だが、正式な名称を決めた方がよいのではないか。

委員長 地域防災部会では会議の議論を踏まえて最後に決めたので、( 仮称 ) シニア世代の地域参加部会でも最後に決める予定である。

部会長 部会名そのものについても意見があれば出して欲しい。

委員 地域に参加すればよいのではなく、参加することで地域を活性化するという意味を具体的に表現し、できればもう少し短い名称がよいと思う。例えば、シニア世代活性化部会の方がよいと思う。

委員 川崎区に住んでいる人たちのふるさと意識や縦と横のつながりをどのように広げていくかを考える必要があると思う。

資料に掲載されているNPO団体、活動などを見ると、私の周囲の人が取り組んでいるものばかりである。

新しく住民になった人がどのように地域にかかわるかということでは、子どもを通じてだったり、清掃活動に参加したりといろいろあると思うが、具体的にはどうすればよいかとなると難しいと思う。

部会長 区内で大規模マンションが建設され、新しく住民になった人との関係も踏まえたコミュニティづくりもあるだろうし、2007年問題が叫ばれているので、団塊の世代の地域デビューに関することでもよいと思うので、意見を出して欲しい。

委員 「定年を迎えて地域に帰ってくる」という表現があるが、「帰ってくる」ということはどこか行っていたということである。しかも、行っていたのはほとんど男性である。女性はPTAや子どもの学校でのつながりなどがあり、地域に根差して暮らしてきた。

地域は「どこの人が定年する」などの情報を探している。ということは、地域をうまく運営していくためのパワーやノウハウ、人手が不足しているのである。しかし、そういう人は定年しても本当はそういうことと関係なく、俗な言葉で言えばぶらぶらすることを目指していたりする。そういう人たちを対象に、地域で活動するようお願いしたり、仕事を紹介したりすることがよいのかよくわからない。シニア世代は講座などシニアのための情報を本当に欲しがっているのか聞いてみたい。

大規模なマンションが建設されるという話があったが、マンション数全体では50世帯以下の規模のマンションの方が圧倒的に多いと思う。マンションで暮らしている人と地域の町内会、市民活動団体とのぎくしゃくした問題が今までもたくさんあった。それは、大規模マンションに限ったことではなかった。

マンション自体にも管理や運営にかかわる委員会のような組織あると思うが、そういう組織同士のネットワークはあるのか。例えば、マンション自治会ネットワークなどである。

事務局 地域に行政の情報を提供するお手伝いをしてもらっているのは町内会・自治会である。30世帯くらいの規模のマンションは既存の町内会・自治会に加入できるが、500世帯ある大規模マンションとなると、受け入れる町内会・自治会がなく、地域で孤立してしまう。マンションだけで町内会・自治会をつくれるかということ、つくことは可能である。現状は、管理組合はあるが地域と積極的に係るような組織はないところが多い。

委員 シニアに対して地域に参加するというライフスタイルもあると提案したとしても、これまでのコミュニティ、つまり、町内会の仕事をして欲しいと言うと、抵抗を感じるシニアが多いと思う。だから、新しいタイプの町内会を考える必要がある。今の町内会・自治会は戦後何年か経ってでき上がった。そのタイプの町内会には積極的に入ろうとはしないと思う。

事務局 地域防災部会でも話題になったが、町内会・自治会で防災訓練を実施しても参加

団体・人員には限界がある。地域コミュニティを構成する組織自体を変えていかなければだめだという意見があった。地域コミュニティを構成する団体としては町内会・自治会、市民活動団体などがある。それらを全て含めた地域コミュニティを構築していく必要がある。今は町内会・自治会だけではなく、もっといろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきているのではないか。

委員 マンション住民のネットワークはあるか。

マンション管理のネットワークがある。横浜では横浜マンション管理ネットワークセンターがある。

事務局 管理組合の全国組織はある。それで、先ほど言ったように京町は四つあるが、日ごろの管理組合の情報交換などを行っている。市の施策では、町内会・自治会は市民局の所管だが、建物はまちづくり局の所管であり、管理組合の登録制度を18年度から始めている。管理組合の運営支援を始めたところであるが、登録は全市でまだ一桁台である。

委員 シニア世代全部を包括するのは難しい。シニアでも現役で働いている人はたくさんいる。先ほど意見があったように、女性は既に地域でネットワークをつくっていて暇で困る人はあまりいない。女性に対しては何もしなくても問題ない。

男性で今は地域参加していないが、何か参加したいというニーズがある人に対し、地域での取り組みを紹介したり、どういう分野の活動がいいかを指導したり、例えばどこの団体がこういう人を求めているという情報を提供したり、あるいはリーダーになりたい人がいたらリーダー研修の受講を勧めたりする。そのように効率的な場を用意して、川崎区の中で10人でも100人でも参加してくれれば、スタートとしては大成功だと思っている。

委員 男性で地域に参加したいがどうしていいかわからない人に、何か対策を講じることが課題か。

委員 町内会に批判的な人がたくさんいる。理由を聞くと、町内会は地元の有力者が実権を握っていて、新しく参加するすき間がないという。参加したいと思っているが、参加させてくれないというような人もいると聞くことがある。

一方で、町内会の中には高齢化していて大変で、お祭りの支度なんてとてもできないというところもある。若い人たちに参加して欲しいという気持ちがありながら、それが表面に出てきていないのが現実である。地域リーダーの中には地元でない人の参加に抵抗がある人がいる。

行政としては地域の中核である町内会・自治会を活性化させることもコミュニティの新しい形成の一つだと思う。

委員 確かに女性に対しては何もしなくてもよいだろう。では、男性は放っておくと何もできないのだろうか。団塊の世代の男性はそんなパワーもない情けないもので、女性は放っておいても平気なのに男性は放っておくとかわいそうというのではだらしがない気がする。団塊の世代の男性も、何もしなくてもすぐに自ら新しいライフスタイルをつくっていくと思う。

そういう人たちに新しいライフスタイルをあてがったり、紹介したりしなければならぬことを課題として考なければならぬとなると情けない気がする。

委員 中学校区の地域教育会議では比較的町内会に関係していない若手が中心になって活動を始めている。ところが、放っておいたため自然消滅的に活動が縮小してきている。何か再活性化するような対策を講じるのも一つの方法である。

委員 60歳で定年したから急にすることがないという人は意外と少ないと思う。私は65歳が定年だったが、62歳で仕事を辞めた。辞めた理由の一つが忙しいからである。仕事を辞めないと団体の役職などの務めが中途半端になる。

企業を定年になった人も8、9割は週に3日ぐらい仕事をしている。あとは自分の好きなこと、ゴルフ、登山などをするのにちょうどよい。65歳ぐらいまでは団塊の世代といっても余計なことを気にする必要はなく、放っておけばよい。かえって団塊の世代ではなく、もっと上の年代に対する対策が必要なのではないだろうか。

奥さんが活動していてそのご主人を誘って夫婦で活動すると長続きする。女性が活躍しているグループに参加していると、ほかのグループに誘われる。奥さんがご主人を誘って引っ張り出すような感じにすることで広がっていくと思う。

委員 そういう機会をつくらなければならないことが課題なのか。

委員 仕事を週に3日ぐらいしている人は、生きがいを見つけているからよい。

町内会の役員は戦後になって地域に引っ越してきた人ばかりである。ある程度は新しい人も入ってくる。

民生委員、保護司などの成り手がいらないが、民生委員、保護司だけで成り手を探しているからである。公募のように地域で呼びかければたくさん出てくると思う。

団塊の世代はパソコンで生きてきたような人たちばかりなので、ホームページなどで広報した方が、紙媒体より伝達力があると思う。既存の女性のグループもパソコンに詳

しい人たちに力になってもらえるとありがたいのではないかと思います。

委員 町内会、文化団体、体育指導員など多くの団体で、新しい人が入ってこないために高齢化している。そういうところには新しい人は入りづらい。新しい人たちが自分たちで会をつくれれば集まる。

各地域でラジオ体操を実施しているが、女性が指導者になっているところは活気があ  
る。そういった面では男性はいざとなるとからっきし弱い。男性は一番後ろで恥ずかし  
そうに体操をしている。やはり女性を中心にして、それに集まっていくということが必  
要だと思う。

以前にあった成人学校のような市民館の行事などで新しいアイデアを出していかな  
いと、人は集まらないと思う。稲毛神社の山王祭も新しい若手が盛り上げていて、高  
齢の人が一歩下がっているところの方が、活気がある。

委員 シニア世代は世の中を動かしてきた熱い世代だと思う。戦前生まれの人とは価値観  
も大分違うし、定年といっても、むしろ今までの高齢者のイメージを相当変える人た  
ちではないかという期待感を持っている。町内会や地域教育会議など既存組織が必ずしも  
活性化していないという意見があったが、そういう人が新たに加わることで何か変え  
得るのではないかと思います。

2007年問題と言われていたが、高齢者雇用安定法(改正60歳定年法)が昨年(平  
成18年)4月に施行され、7割以上の方が定年を迎えても継続して働きたいとのこと  
なので、むしろ5年後の年金が支給される時期に問題になるという意見が出ている。

いずれにしても、確かに女性はあまり問題がないと思うが、男性は仕事一筋で来た人  
ほど定年で自分の存在感を失う人が結構いる。そういう人もいろいろなノウハウを持  
っているので、それを地域で生かせないだろうか。人としていろいろなものを身につけて  
おり、大きな財産だと思うので、そういう人を生かせる地域、そういう人が生き生きし  
ているまちづくりができればよいと思う。

それには受け皿がもう少し必要だと思う。町内会で元気なシニア世代の受け皿をつ  
くようなことができないかと思う。

委員 これまでの意見を聞いた上で、方向性としてはシニア世代に押し付けるような方法  
ではなく、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えていくのだと思う。

新しいマンションが建設されている、単身世帯が多いなど区の特徴をとらえ、その人  
たちが地域にどうかかわってくれるのか。行政にはシニア世代を地域に呼び込むよう  
な取り組みを実施して欲しい。区民会議ではどのように展開していくのか、あまり見え  
てこない。

確かに女性は地域と子育て、隣近所、学校、PTA、趣味などいろいろとつながっているが、自分の夫に「定年を迎えたときにどうするのか」とは聞きにくい。65歳から上の世代は規則正しい質素な生活をしてきた人なので、元気でまちのためにいろいろ活動している。しかし、50～62歳くらいの方は自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かするということが優先順位が高くない。先ほど委員の意見でもあったが、65歳くらいからがシニアで、50～62歳くらいの方はやることがほかにもあると思う。

町内会で何かの役職を引き受けると目立ってしまい、すぐに別の大きな役職も依頼されるので、なかなか男性で地域に出ていく人がいない。しかし、子供会の野球の応援や公園掃除など大勢で実施するものには出ていく。意気投合した仲間や目的を持ったサークルの方が動きやすい。

委員 最初に地域参加という部会名に疑問を呈した意見があったが、それが正しかったのではないかと思う。つまり、地域参加はライフスタイルの一つで、もっと大きな視点で言えば生き生きシニアライフということになるのではないだろうか。

審議課題はシニア世代が増加することで何か問題が生じるというところから始まっているのだが、例えば、私は64歳であるが60歳の後輩が定年を迎えるとして、その人たちにアドバイスを言うとする、つまり「どのように生き生きとしたシニアライフを送ったらいいか」ともし私が相談を受けたら、「勝手に生き生きしなさい」と言いたい。子どもではなく、60歳を過ぎた大人なのだから自分で考えればよい。

しかし、社会的な問題であるため、そう突き放すわけにもいかない。NHKなどでこういう問題を取り上げるとき、それまでの肩書きや意識を捨てるべきだなどいろいろな意見が出されるが、それは確かにそのとおりで当たり前のことである。川崎区区民会議では独自の提案、助言、忠告などで、何かこちらで仕掛けをつくることができればよいと思う。例えば、自然発生的にシニア世代のパワーが集まり、何かをするように演出をしたり、あるいは発生したものを活性化させるために仕掛けたりするといったことである。

区民会議では地域参加ではなくライフスタイルのようなもの、ライフスタイルの一つとして地域参加もあるが、そのほかのいろいろなライフスタイルの中でどういうことが考えられ、どのような課題があるのかを議論するのだと思っていた。

事務局 審議課題の趣旨は、シニア世代をどうするというのではなく、シニア世代の力やノウハウをどうしたら地域課題の解決に巻き込んでいけるかということである。区民会議ではその仕掛けを議論してもいいのではないか。地域にはさまざまな課題があるので、課題を解決するためにどのようにしたらその人たちに参加してもらえるかである。

委員 シニア世代にしてみれば、あまり行きたくないチームからスカウトされているようなものである。行政の立場からすれば、シニア世代にパワーが余っていきそうだから活用しようという考えがあるのだろうが、シニア世代が本当にそれ求めているかどうかはわからない。委員の意見でもあったが、地域活動に参加したいがどうすればよいかわからなかったり、二の足を踏んでいたりする人などに絞って、有効に地域で活用しようということだろう。

どこに議論を絞るか決めた方がよい。

委員 川崎市地域福祉計画策定委員会で同じような話があった。それについてはアンケートのデータがある。ボランティア、地域福祉活動に関する意識等の項目で「今までボランティア活動の経験があるか」という問に対して、活動したことがない人が88.7%いた。活動に参加した動機やきっかけには「人の役に立ちたいから」が49.5%「自分のために必要な活動だから」が27.7%いた。活動に参加したことがない理由や、活動しない理由で「なぜ参加しないのか」という問には「仕事が忙しくて時間がとれないから」が53.8%「身近に活動できる場所やグループがない」が31.5%いる。参加経験者の調査では「今は参加していないが、条件がそろえば参加したい」という人が43.2%「町内会、自治会に関する活動」が25.0%という結果だった。

一方、活動を行う上で困っていることを町内会、自治会の人たちに聞いたところ「スタッフ、担い手が高齢化している」が38.3%「新たなスタッフが入ってこない」が33.6%「活動のリーダー的存在が不足している」が25.2%「活動資金が不足している」が21.2%という結果であった。

全員ではないが、これだけの人たちが地域で機会があれば参加してみたいということである。とすれば、こういう人たちに対し、こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをすることが審議の中心になるのではないだろうか。そういう人が来るか、来ないかは別だが、そういう機会を設けて実施してみてもいいかと思っている。

委員 受け皿というのは例えばどういうものか。

委員 例えば、これから地域で活動を始めたいという人が集まって、その人たちの活動希望を聞き、それならばあなたの特技を生かして活動する場所がこういうところにあるので、どこどこに登録したらどうかというようなことをしてもいいし、地域の中で何とか活動したいのならば、何か対策を講じるなどである。

委員 高齢者の特徴は人の役に立ちたいという地域貢献意欲がとても高いことだが、その

場が探せない、見つからないのである。今まで家族、会社などのために一生懸命働いてきたが、ボランティア活動というのは意外としてこなかった。やはりそういう受け皿づくりが必要だと思う。

先ほど委員の意見でもあったが、当たり前前の提案ではない特色あることができると思う。部会名も、例えば思いつきだがシニアパワー爆発部会とか、川崎区のシニア世代は元気すごいということが表現できるとよいと思う。

高齢者は自分が楽しいことしかしないと思う。これまで苦しいことを多くしてきたので、居心地がよかったり、人との出会いがあったり、仲間づくりも含めてワイワイ、ガヤガヤできるようないい環境が増えるとよいと思う。

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんあると思う。ものづくりだけでなく、いろいろな遊びも含めて、核家族化で途絶えてしまったことを地域の人に教えるということもある。ぜひそういうシニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しいと思う。

昔、青年の主張というテレビ番組があったが、シニアの主張があってもいいと思う。そういうイベントを実施できるかは別として、人口の20%を超える一大勢力である高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しいと思う。そうすれば、恐らく町内会も変わるだろうし、いろいろなところがだんだん変わると思う。

委員 元気なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。

委員 純然たる遊びではだめである。

保護司さんと中学校の生活指導担当の先生や校長先生などで、毎年1回話し合いがある。先生方がとても打ち解けて、例えば授業中に教室抜け出して校内を歩きまわる児童がークラスに二人くらいずついるといった話をしてくれる。そういうことはあまり知られていないので、たまには学校にお茶を飲むつもりで来て現実を見て欲しい。そういう中で、意外と先生や地域の子どもの関係ができるのではないかと思う。

登校拒否の子どもを集めた学校をどこかの学校の空き教室を使って、団塊の世代の人たちに力になってもらい設置したらどうか。

部会長 まだいろいろな意見があると思うが、時間の都合もあるので部会名を決めて欲しい。

委員 シニア活動支援部会など、取り組みがわかるような部会名がよい。

委員 地縁はどうか。職縁と血縁はあったが、そういう人たちは地縁がない。職縁がなくなって地域に帰ってきたら行き場所がない。

委員 地縁が昔のコミュニティの形成の要素だったが、血縁、地縁がなくなって崩壊してしまった。社会情勢の変化でそうなったのだが、今は個人主義的な時代なので地縁がつかれなくなってきている。

委員 シニアパワー爆発部会がよいと思う。

委員 シニア世代よりシニアパワーの方がよいと思う。シニア世代というとその世代をひとくくりにされたみたいに感じる。

部会長 折衷案としてシニアパワー支援部会はどうか。シニア世代の力を活用しようという意味である。

委員 シニアの立場になって考えると、活用されたり、支援されたり、活性化されたり、そんなにいろいろされてはたまらないという感じだが、審議課題をわかりやすくするとシニアパワーを考える部会ということなので、シニアパワー部会はどうか。

部会長 部会名はシニアパワー部会ということでした承して欲しい。

以上で審議を終了する。

#### 4 閉会

事務局 <第2回地域防災部会、区ホームページでの会議録の公開、市政だより川崎区版9月号記事掲載を説明>

区長 <お礼を述べる>

午後 8時30分 開 会